



古雄
108

寸楮が呈時ハ返寒し

候に處ハ丁憂中

貴體如何ニ為國家内自

愛幸禱也爾後ハ心外し

仰々音まゝ御縁中ハ是拜

もも各々之改々有御

内々御降るる事ありし

趣の積りこたへまゝに

御胃を悪くし

言をい毎に結すし海

敵の御もおのせし積

の累重時勢の新裁

雪草書卷の巻尾に心外に
印なき音まゝの印像中の舞
もも各と之改らぬおの印
印の印像しるまゝありし
題の括りかゝるまゝあり
括りかゝるまゝありし
音まゝの印かゝるまゝあり
各の印もかゝるまゝあり
の墨東時敷の刺戟
により極めてこの切の感
とたきか件ありし音海
と書り度因てとらぬし
印像ありまゝありし
上の印ありし
一月廿七日

直彬

大隈お見研北